

編集後記

2024年は、わが家にとってちょっといつもと違う年になりました。住んでいる自治会の役員が回ってきてしまい、訳もわからないまま引き受けたのが昨年の2月。それから約13カ月の間、会計役員として自治会の出納業務や行事運営に奔走しました。特に、使い慣れないMSエクセルを使った自治会収入・支出の管理は大役で、やっと先日会計監査も終わり、1年間の緊張から解放されました。思えばアパート暮らしをしていた時は、自治会がどんな目的のもとに運営されているかもわからず、波風立たないよう言われるがままに自治会費を納め、皆が恐れる「班長」という役割が回ってこないよう祈るという日々でした。持ち家に住むようになり、引き受けた当初は苦痛でしかなかった自治会活動ですが、仕事を続けるにあたり意義ややりがいを感じられるようになりました。1年を通して感じた自治会活動の意義や難しさをここに総括したいと思います。

研究所や大学と違い、地域住民（自治会会員）の方々は、年齢も生活スタイルもさまざまです。わが家のような子育て真っ盛り世代や、共働きのパワーカップル、後期高齢単身世帯など、多様な世帯が共生しています。もちろん、ご近所付き合いが盛んだった一昔前に比べると共生の必要性が下がってきていることは事実ですが、それでも困ったことはお互いさま、助け合い支え合いで生きていく方が効率的です。市町村のサービスを受けるにも、住民の意見をまとめてから陳情すればスムーズです。街灯や防

犯カメラの維持・管理、登下校時の児童見守り、何より適度な住民同士の親睦・交流、などにより地域の防犯防災力が高まります。これらをお金で解決しようと思うと、賃貸暮らしの時に支払っていた共益費では賄えないだろうと感じます。自身でも、单身時代は属するコミュニティは別にあり、家は帰って寝るだけの場所でしたが、家族が増え周りに迷惑をかけたり助けてもらったりという経験が増えるにつけ、地域に根ざした生活の重要性を感じるようになりました。

日本のどの自治体でもおおそ共通して起こっていることだと思いますが、わが自治会でも高齢化が進んでおり、役員メンバーの中では私が最も若い世代でした。もちろん皆がPCやスマホを使いこなせるわけでもなく、気がつく操作ミスでLINEグループから締め出される人が出たりと、不測の事態も起こります。紙ベースの打ち合わせや回覧は無駄が多いなとも思いつつ、いつか必ず自分も時代遅れになることを考えると、やっぱり思いやりは重要だと理解できるようになります。

1年間のお勤めも終わり、また一般の自治会会員に戻ることになります。出納帳の管理や行事、役員会から解放されて嬉しいと思う反面、やはり寂しい気持ちもあります。読者の皆様も、日本で暮らしているといつかは自治会班長・役員を依頼される（押し付けられる？）ことがあるかもしれません。忌避する気持ちはいったん置いて、「はい、喜んで」とお引き受けしてみるのはいかがでしょうか？（小林達哉）

プラズマ・核融合学会 役員

会 長	安藤 晃		
副 会 長	坂本瑞樹(推薦委員長：研究助成)	花田磨砂也(男女共同参画委員長)	
常務理事	市口勝治(総務委員長)		
理 事	渥美寿雄 居田克巳 稲垣 滋 井 通暁(推薦委員長：学会賞)		
	大原 渡 兄玉了祐(広報委員長)	古閑一憲(支部・地区研究連絡会委員長)	
	坂本克也 白藤 立 仙波智行(財務委員長)	高橋幸司	
	田中康規(企画委員長)	鳥養祐二(研究部会連絡委員長)	村上 泉(編集委員長)
	藤田隆明(年会運営委員長、企業展示検討委員長)	林 伸彦	
監 事	前田達志 立松芳典		

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 大原 渡(山口大) 応 用 白藤 立(大阪公立大) 核融合プラズマ 林 伸彦(量研) 核融合炉工学 渥美寿雄(近畿大)

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：村上 泉(核融合研) 副委員長：鳥養祐二(茨城大)
エディタ：前原常弘(愛媛大)、稲垣 滋(京大)、重森啓介(阪大)、高橋裕己(核融合研)、石澤明宏(京大)、大矢恭久(静岡大)
編集委員：伊神弘恵(核融合研)、池田善久(愛媛大)、伊藤 悟(東北大)、宇藤裕康(量研)、岡本征晃(石川高専)、
小田靖久(摂南大)、恩地拓己(九大)、河内裕一(名大)、川面洋平(宇都宮大)、小島完興(量研)、小林達哉(核融合研)、
佐野孝好(阪大)、篠原正典(福岡大)、白戸高志(名大)、曽根宏隆(豊田自動織機)、高橋一匡(長岡技科大)、
富田健太郎(北大)、中野治久(核融合研)、中村友祐(名大)、成田絵美(京大)、難波愼一(広島大)、針谷 達(岐阜大)、
皇甫度均(筑波大)、古川武留(神戸大)、松岡清吉(量研)、本島 巖(核融合研)、山崎広太郎(広島大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第101巻第4号

編集・発行 印刷 株式会社荒川印刷
〒464-0075 名古屋千種区内山3丁目1-1 4階 2025年(令和7年)4月25日
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: https://www.jspf.or.jp/ 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。